

野菜の生産・流通実態調査の概要 (ベトナム) 参考資料

独立行政法人 農畜産業振興機構
調査情報部

(参考1) 農業史

- 1958年～60年代 北部農業集団化(集落ごとに合作社)
- 1960年代 戦時下の要求から合作社の規模拡大
- 1975年 共産政権が南北統一。南部でも農業集団化
- 1981年 100号指示:各世帯を単位とする農業生産へ(農民は、田植え、栽培管理、収穫の3部門を請け負う)
- 1981年～85年 農業生産が急上昇、85年をピークに下降
- 1986年 ドイモイ開始
- 1988年 政治局10号決議:家畜、農機具等の農民所有を認める。農業資材の市場売買を容認。
- このころの合作社は、水利と植物検疫だけ責任を負い、農家へのサービス業の対価として利益を得る。(現在では合作社 = 農協)
- 農民は税金と合作社基金を支払った後には、生産物を自由に処分できるようになった(これまでは安価に売り渡す義務を負っていた)。
- 一方で、土地分配によって、1経営体の農地面積が縮小し、大規模な商業作物の生産に適さなくなった。

- **1993年 土地法改正**: 土地は国家所有であるが、土地の使用権(交換、譲渡、賃貸、譲渡、相続、抵当)を認める。
一年生作物は20年、多年生作物は50年の土地利用を認める。
1世帯当たりの上限は、北部は2 ha、南部は3 ha。
- **1996年1月 貧民銀行**による貧困世帯向け無担保低利融資の開始 (cf: 農民銀行)
- **1996年10月 合作社法**の制定
合作社は社員(組合員)が自主的に結成・運営する組織
- **1997年 協同組合法**の制定
農家の組織化を支援。組合は農家のための経済サービス機関。
2000年の農協数は8,850(うち北部が7,295)
- **1998年 民間農場**の役割が認められ、法的な地位を獲得。
賃貸の場合等に限り、農地利用の上限面積を撤廃。
- **2000年** 各作物ごとの具体的目標と農産物販売促進が決議。後者は、農産物販売機能を持つ合作社の設立(= 農協)や民間加工場と農民を媒介する合作社の機能強化に言及

(参考)「農場」とは

主に北部に存在した「**国営農場**」は土地を管理し、農民を雇用した生産体として、国の指令を受けて生産していた。農機具等の生産資材も国の財産であった。ドイモイにより国営農場は解消した。

一方、南部を中心に存在する「**民間農場**」があり、平均面積は6 haと国営と比べると小さいが、今後の発展の可能性が高い。

(参考2-1) 枯れ葉剤について

- 米軍は、ベトナム戦争でのジャングル戦打開のため、ベトコンが潜むジャングルそのものを枯らしてしまう薬剤「枯れ葉剤」(ダイオキシンを含む)を大量に散布。散布は、飛行機やヘリコプターからだけでなく、船、ジープ、トラックからそして兵士が噴霧器を背負っても行われた。
- このようにして、1962～1971年にかけて計約1千7百万ガロンもの枯れ葉剤が散布(1ガロン=3.785リットル)。
- 枯れ葉作戦は1971年8月に中止。
- ダグラク省西南部やラムドン省西部丘陵地域はホーチミン・ルート末端の重要部分を占めていたため、激しい空爆の対象となり、これらの地域では枯葉剤撒布の後に乾季中の焼却を目的にして米軍が空中散布した米国原産の背の高いアメリカン・グラスと現地と呼ばれている雑草が旺盛に繁茂している姿がいまでも見受けられる。
- 旧ソンベ省(現在のトゥザウモット省、ビエンホア省の一部)、ドンナイ省、タイニン省などホーチミン近郊からカンボジア国境付近(ホーチミンルート)に重点的に撒布されており、野菜の主産地から外れている。このため、検査によるダイオキシンの検出事例の報告なし。

(参考2-2) ホーチミンルート



出典：以下の枯れ葉剤関係の情報は戦争証跡博物館で入手

(参考2-3) 枯れ葉剤による破壊面積(1)

地域	面積 (km ²)	破壊面積 (km ²)	破壊率 (%)
Ho Chi Minh	2,029	530	26
Binh Tri Thien	18,340	3,678	20
Quang Nam-Da Nang	11,989	2,639	22
Nghia Binh	11,900	2,049	17
Gia Lai-Kom Tum	25,536	3,301	13
Dac Lac	19,800	727	4
Phu Khanh	9,804	1,638	17
Lam Dong	9,933	720	7

(参考2-4) 枯れ葉剤による破壊面積(2)

地域	面積 (km ²)	破壊面積 (km ²)	破壊率 (%)
Thuan Hai	11,374	1,918	17
Song Be (解放前の行政区分)	9,859	4,217	43
Tay Ninh	4,030	1,480	37
Dong Nai	7,578	3,773	50
Loan An	4,355	582	13
Tien Giang	2,377	158	7
Ben Tre	2,225	444	20
Dong Thap	3,393	100	3

(参考2-5) 枯れ葉剤による破壊面積(3)

地域	面積 (km ²)	破壊面積 (km ²)	破壊率 (%)
Kien Giang	6,358	198	5
Han Giang	6,126	270	4
Cuu Long	3,854	306	8
Minh Hai	7,697	226	16

(参考3) ベトナムの農家(ホーチミン近郊)

- 12人家族
- 家族のうち、労働力は4人(23歳～40歳)
- 農業のみで生計
- 栽培品目
 - コメ(2期作と3期作): 4,000m²
 - だいこん: 小規模
 - トマト: 小規模
- 販売価格
 - コメ: 2,000～3,000ドン/kg
 - だいこん: 3,000ドン/kg
 - トマト: 3,000～4,000ドン/kg

あくまでも訪問できた農家の状況である点に留意

(参考4-1) ハノイ市場

品目	産地	価格(ドン/kg)
トマト	中国	6,000
キャベツ	中国	6,000
キャベツ	ベトナム	3,500
リーキ	ベトナム	3,500
たまねぎ	中国	3,000
にんじん	中国	7,000
ばれいしょ	中国	3,000
しょうが	ベトナム	10,000
いんげん	ベトナム	5,000
だいこん	ベトナム	3,500

(参考4-2) ホーチミン卸売市場(1)

- 2002年開設
- 入居スペース数: 900 (稼働率98%)
- 入居料: 20,000,000 ~ 30,000,000ドン (権利を購入)
- 野菜と果物のみ (開設時には食肉も扱う)
- 毎日21時 ~ 7時
- 入場数
 - コンテナ車 (10t以上): 200台/day
 - 3t ~ 5t車: 1000台/day
- 取扱高
 - 500万t ~ 1,000万t (通常)
 - 1,000万t ~ 2,000万t (需要期)
- 一般消費者も入場可

(参考4-3) ホーチミン卸売市場(2)

品目	産地	価格(ドン/kg)
トマト	ダラット	4,000
トマト	ダラット	5,000
トマト	ダラット	6,000
ばれいしょ	中国	5,000
オクラ	ベトナム	2,500
オクラ	ベトナム	3,000
はくさい	ベトナム	2,000
キャベツ	ベトナム	3,000

(参考4-4) ホーチミン卸売市場(3)

品目	産地	価格(ドン/kg)
たまねぎ	中国	5,000
しょうが	ベトナム	7,000
にんにく	中国	9,500
かぼちゃ	ダラット	15,000
にんじん	ダラット	4,500
紫キャベツ	ダラット	9,000 ~ 10,000
セロリ	ダラット	10,000

(参考4-5) Dong Xuan市場

品目	サイズ	産地	価格(ドン/kg)
しょうが	小	ベトナム	8,000
しょうが	大	ベトナム	15,000
しょうが	大	中国	8,000
たまねぎ	大	中国	8,000
たまねぎ	大	中国	5,500
たまねぎ	小	ベトナム	20,000
にんにく	大	中国	10,000
にんにく	小	ベトナム	15,000
ばれいしょ	大	中国	3,500
ばれいしょ	小	中国	2,500

(参考5-1) 野菜の小売価格 (COOP-1)

品目	価格(ドン/kg)	品目	価格(ドン/kg)
はくさい	4,000	にがうり	5,700
紫キャベツ	10,000	ばれいしょ	5,700
キャベツ	5,000	ねぎ	7,000
ブロッコ	4,700	たまねぎ	5,700
トマト	5,700	しょうが	23,000
きゅうり	4,000	ほうれんそう	8,900
にんじん	4,500	ちんげんさい	5,000
だいこん	3,800	なす	12,000

(参考5-2) 野菜の小売価格 (COOP-2)

品目	価格(ドン/kg)
ほうれんそう	9,800
かぼちゃ	2,900
長かぼちゃ	2,800
キャベツ	17,000
さやいんげん	5,500
しょうが	15,000

野菜加工品の研究(果物・野菜研究所)



枯れ葉剤撒布機



市場の様子(ホーチミン)



ダラットの風景



トマトの圃場

乾燥野菜(にんじん)



乾燥野菜(各種野菜)

冷凍ほうれんそう加工工場



キャベツの圃場(ダラット)

